



## 2024年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年7月13日

上場会社名 株式会社 日本色材工業研究所  
コード番号 4920 URL <http://www.shikizai.com/japanese/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 奥村 華代

問合せ先責任者 (役職名) 取締役企画・経理部長 (氏名) 霜田 正樹

TEL 03-3456-0561

四半期報告書提出予定日 2023年7月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年2月期第1四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第1四半期	3,679	48.3	170		159		139	
2023年2月期第1四半期	2,481	18.8	83		82		27	

(注) 包括利益 2024年2月期第1四半期 179百万円 ( %) 2023年2月期第1四半期 12百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第1四半期	66.65	
2023年2月期第1四半期	13.16	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年2月期第1四半期	16,522	3,190	19.3	1,522.54
2023年2月期	16,049	3,011	18.8	1,436.90

(参考) 自己資本 2024年2月期第1四半期 3,190百万円 2023年2月期 3,011百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		0.00		0.00	0.00
2024年2月期					
2024年2月期(予想)		0.00		10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,971	24.2	211	503.6	168	540.1	132	76.4	63.16
通期	13,120	11.6	283	75.2	200	34.9	140	43.0	66.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期1Q	2,099,376 株	2023年2月期	2,099,376 株
期末自己株式数	2024年2月期1Q	3,569 株	2023年2月期	3,569 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期1Q	2,095,807 株	2023年2月期1Q	2,095,856 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき記載しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想とは異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報) .....	7
(収益認識関係) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年3月1日～2023年5月31日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染が、2022年末の感染第8波のピークから大きく鎮静化、収束の傾向が続く中、感染症法上の分類引き下げやマスク着用の緩和といった対策も打ち出され、先行き不透明感に残るものの回復の動きが続いております。海外各国でも、ウィズ/アフター・コロナの生活様式が定着し、新型コロナウイルス感染症の生活・経済への影響は大きく軽減しております。一方で、2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は長期化しており、特に欧州を中心に資源・エネルギー価格の上昇や物流の遅延等を引き起こし、世界的なインフレや金利上昇に波及するなど、経済活動への影響と先行き不透明感が継続しております。

化粧品業界におきましては、メイクアップ製品を中心に、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けておりますが、改善の傾向が続いております。国内では、マスク着用が習慣として常態化しており、個人消費はメイクアップ製品を中心に新型コロナウイルスの感染拡大前を下回っておりますが、足元では化粧機会は増加、マスク着用も徐々に減り、消費マインドも大きく改善してきているものと思われまます。海外においても、新型コロナウイルスの感染は収束の動きを見せており、化粧品需要は回復の傾向にあるものと思われまます。

当社グループにおきましては、国内・海外化粧品メーカーからの受注は、回復しつつありますが、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大前を下回っており、つくば工場第3期拡張等の設備投資によって実現した生産能力を活用しきれない状況が続いております。しかしながら、足元の受注回復を受けて工場の稼働も着実に改善しており、厳しい環境下ながらも業績は回復、前連結会計年度は3期ぶりの営業黒字計上を果たしております。

今後も、社会がウィズ/アフター・コロナに移行、正常化していく中で、化粧品需要は回復していくと思われまます。ロシアのウクライナ侵攻等を引き金にした諸物価やエネルギー価格、人件費等の上昇は継続しており、引き続き経済全般の先行き不透明感が残ります。そのような経営環境下、黒字の継続と、新型コロナウイルスの感染拡大以前の業績水準への早期回復に向けて、事業基盤の再構築を最優先の課題に掲げた「中期事業戦略ビジョン（2022-2026）」の諸施策を着実に実行してまいります。当面は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた化粧動向を反映した処方や生産技術の開発でお客様の要請に応え、中長期的には化粧品へのクリーン・ビューティー、SDGs等の要請に対応するなど、新しい環境での強みを伸ばして業績の速やかな回復を図るべく更なる努力を重ねてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における経営成績は次のとおりとなりました。

受注水準は、依然として新型コロナウイルスの感染拡大前を下回るものの、国内・海外の化粧品需要の動向を反映して回復しつつあり、売上高は前年同期比48.3%増の3,679百万円となりました。

利益面では、引き続きつくば工場第3期拡張等により諸費用が増加している中で、原材料や光熱費、各種経費等の価格上昇の影響も受けておりますが、売上高の増収と各種コスト圧縮努力により、営業利益は170百万円（前年同期は営業損失83百万円）、経常利益は159百万円（前年同期は経常損失82百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は139百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失27百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間における所在地別セグメントの業績の概況は、次のとおりです。

（日本）

新型コロナウイルス感染症の影響が大きく軽減している中で、国内外の化粧品需要に回復の動きがみられ、国内・海外化粧品メーカー各社からの受注が回復してきていることから、売上高は前年同期比31.5%増の2,500百万円となりました。利益面では、引き続きつくば工場第3期拡張等により諸費用が増加、加えて原材料費や各種経費等もインフレで上昇している中ではありますが、増収と各種コスト圧縮努力によって、営業利益は前年同期比743.9%増の51百万円となりました。

（仏国）

子会社THEPENIER PHARMA & COSMETICS S.A.S.と子会社Nippon Shikizai France S.A.S.の所在する欧州は、当第1四半期連結累計期間（1～3月）において、引き続きロシアのウクライナ侵攻の影響を受けていますが、新型コロナウイルス感染症の影響が軽減したことから化粧品および医薬品の受注に改善の動きがあり、売上高は前年同期比105.5%増の1,213百万円となりました。利益面では、設備投資に伴う諸費用の増加等に加えてウクライナ侵攻によるエネルギー価格等の諸物価高騰の影響を受けましたが、大幅な増収もあって営業利益は118百万円（前年同期は営業損失85百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、473百万円増加し、16,522百万円となりました。総資産の増加は、流動資産が439百万円、固定資産が33百万円増加したことによるものであります。流動資産の主な増加要因は、電子記録債権が380百万円、棚卸資産が255百万円増加し、現金及び預金が123百万円、受取手形及び売掛金が77百万円減少したことによるものであります。固定資産の主な増加要因は、建設仮勘定が87百万円、有形固定資産のその他が27百万円増加し、建物及び構築物が56百万円、機械装置及び運搬具が21百万円減少したことによるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末に比べ、293百万円増加し、13,331百万円となりました。負債合計の増加は、流動負債が622百万円増加し、固定負債が329百万円減少したことによるものであります。流動負債の増加要因は、電子記録債務が207百万円、支払手形及び買掛金が113百万円、賞与引当金が47百万円、流動負債のその他が357百万円増加し、短期借入金が103百万円減少したことによるものであります。固定負債の主な減少要因は、長期借入金311百万円、固定負債のその他が23百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ、179百万円増加し、3,190百万円となりました。増加要因は、株主資本が親会社株主に帰属する四半期純利益により139百万円、その他の包括利益累計額合計が39百万円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、2023年4月12日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,331,565	1,207,631
受取手形及び売掛金	1,956,162	1,878,444
電子記録債権	225,132	606,111
棚卸資産	2,423,406	2,678,575
その他	226,057	231,632
貸倒引当金	△2,161	△2,346
流動資産合計	6,160,163	6,600,049
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,820,950	4,764,619
機械装置及び運搬具（純額）	1,523,766	1,502,699
土地	2,140,853	2,141,256
建設仮勘定	207,339	295,131
その他（純額）	333,142	360,855
有形固定資産合計	9,026,052	9,064,562
無形固定資産	360,237	358,366
投資その他の資産		
投資有価証券	357,375	351,664
その他	156,601	159,564
貸倒引当金	△11,410	△11,982
投資その他の資産合計	502,566	499,246
固定資産合計	9,888,856	9,922,174
資産合計	16,049,019	16,522,224
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	791,310	904,624
電子記録債務	1,036,519	1,244,197
短期借入金	2,494,927	2,391,025
賞与引当金	85,561	133,446
その他	934,530	1,292,328
流動負債合計	5,342,849	5,965,622
固定負債		
長期借入金	7,041,034	6,729,917
役員退職慰労引当金	146,430	146,430
退職給付に係る負債	87,465	92,898
その他	419,783	396,397
固定負債合計	7,694,713	7,365,643
負債合計	13,037,562	13,331,266
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,510,339	1,510,339
利益剰余金	1,146,283	1,285,968
自己株式	△3,918	△3,918
株主資本合計	2,752,703	2,892,388
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	160,238	156,497
為替換算調整勘定	98,515	142,072
その他の包括利益累計額合計	258,753	298,569
純資産合計	3,011,457	3,190,957
負債純資産合計	16,049,019	16,522,224

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
売上高	2,481,295	3,679,115
売上原価	2,296,053	3,135,130
売上総利益	185,241	543,984
販売費及び一般管理費	268,647	373,227
営業利益又は営業損失(△)	△83,405	170,757
営業外収益		
受取利息	—	0
受取配当金	2,136	2,770
為替差益	25,130	12,512
受取保険金	9,126	—
雑収入	5,152	5,731
営業外収益合計	41,546	21,014
営業外費用		
支払利息	26,535	31,929
その他	14,284	—
営業外費用合計	40,820	31,929
経常利益又は経常損失(△)	△82,679	159,842
特別利益		
投資有価証券売却益	40,037	—
特別利益合計	40,037	—
特別損失		
固定資産除却損	175	203
特別損失合計	175	203
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△42,817	159,639
法人税、住民税及び事業税	1,731	41,739
法人税等還付税額	△16,963	—
法人税等調整額	—	△21,784
法人税等合計	△15,232	19,954
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△27,585	139,684
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,585	139,684

（四半期連結包括利益計算書）  
（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2022年3月1日 至 2022年5月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2023年3月1日 至 2023年5月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△27,585	139,684
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44,392	△3,740
為替換算調整勘定	59,521	43,556
その他の包括利益合計	15,128	39,816
四半期包括利益	△12,456	179,500
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△12,456	179,500
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
日本向け	1,547,217	142	1,547,360	△142	1,547,217
日本以外向け	354,738	590,547	945,285	△11,207	934,077
顧客との契約から生じる収益	1,901,955	590,690	2,492,645	△11,350	2,481,295
外部顧客への売上高	1,890,747	590,547	2,481,295	—	2,481,295
セグメント間の内部売上高又は 振替高	11,207	142	11,350	△11,350	—
計	1,901,955	590,690	2,492,645	△11,350	2,481,295
セグメント利益又は損失(△)	6,046	△85,159	△79,113	△4,292	△83,405

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△4,292千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「仏国」セグメントにおいて、Nippon Shikizai France S.A.S.を当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては80,108千円であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
日本向け	2,276,416	16,754	2,293,171	△330	2,292,840
日本以外向け	223,770	1,196,873	1,420,644	△34,369	1,386,275
顧客との契約から生じる収益	2,500,187	1,213,628	3,713,815	△34,700	3,679,115
外部顧客への売上高	2,465,817	1,213,297	3,679,115	—	3,679,115
セグメント間の内部売上高又は 振替高	34,369	330	34,700	△34,700	—
計	2,500,187	1,213,628	3,713,815	△34,700	3,679,115
セグメント利益	51,025	118,851	169,876	880	170,757

(注) 1. セグメント利益の調整額880千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報）」に記載のとおりであります。